

nikkor club

277
2024 SUMMER

特集

祭りの魅力を
引き出す撮影術

nikkor
club





普段58mmより長いレンズは持っていないが、珍しく85mmを持っていった。周りの人は望遠レンズばかりで「きみ、そんな短いレンズで大丈夫?」と心配された。それを逆手にとって撮影。

CONTENTS

特集

08 祭りの魅力を引き出す撮影術

写真・解説 佐藤倫子／小林紀晴

02 ニッコールクラブ新年度のご挨拶

コンテスト

- 32 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：大西みつぐ(1～3席)／上田晃司(佳作)
- 44 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：ハナブサ・リュウ
- 52 ネイチャー・フォトサロン
選評：三好和義
- 60 ステップアップ・フォトサロン
選評：秋山華子
- 65 ワンポイントアドバイス
- 66 総評・得点表
- 67 予選通過者一覧

作品

- 04 THE GALLERY企画展
KIKORI 木は長い夢を見る 山口規子
- 06 THE GALLERYセクション展
Past Light 光にふれる 浅野久男
- 07 THE GALLERYセクション展
Buen viaje! ～良い旅を!～ 高橋怜子
- 表4 三好和義×NIKKOR Z 20mm f/1.8 S

製品情報

- 28 PRODUCT REVIEW VOL.27
NIKKOR Z 28-400mm f/4-8 VR
上田晃司
- 76 ニッコールクラブ会員様へご案内
「NIKKOR Z 28-400mm f/4-8 VR」
【ご購入時にお使いいただける
10%オフクーポン配布中】
「ニッコールクラブ70周年記念グッズ」
アウトレット販売

連載

- 表2 Photography Portfolio Vol.1
ハナブサ・リュウ
- 20 多彩な現場でも
その実力を発揮するニッコールレンズの魅力に迫る
スポーツ×NIKKOR Z
400mm f/2.8 TC VR S 写真・解説：岸本 勉
- 22 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 Vol.20
プリントを活用して組写真をつくろう 小林紀晴
- 24 インスピレーション Vol.1
私が影響を受けた『漫画』 秋山華子
- 26 受賞者の“いま”
第25回(2023年度) 三木淳賞
吉江 淳 文・写真：池谷修一
- 30 アベっちの使った! 撮った! vol.5
Z f 阿部秀之

インフォメーション

- 69 写真展スケジュール
- 70 会員写真展 PickUP!
「京洛遊歩」上本恵一／
「魔女は思春期 ココロの旅」吉村 俊祐／
ニッコールクラブ阪神支部20周年記念展「あこのろ」
ニッコールクラブ阪神支部
- 72 支部だより
- 73 NCニュース
- 77 イベント情報
- 表3 第72回 ニッコールフォトコンテスト
- 巻末 ニコンダイレクトFAXご注文表
ニッコールクラブ登録情報変更依頼書
会報278号フォトコンテスト応募規定
修理料金割引券

祭りの 魅力を 引き出す 撮影術

日本には、数多くの祭りがあり

写真愛好家の皆さんにも被写体、テーマとされています。

今回は、夏や秋にかけて街中에서도見ることができるとお神輿の渡御と、

古くからその土地に引き継がれている伝統的な祭りの魅力について解説します。

また、最後にニッコールクラブ会員の方にも祭り写真をどのように楽しんでいるか、

また気をつけていることなどを語ってもらっています。

写真・解説

佐藤倫子／小林紀晴







富岡八幡宮に向けて神輿をさすシーン。富岡八幡宮の例祭「深川八幡祭り」では神輿を上へ高く上げるこのシーンは、祭りでもメインになる場面。私の目的は「深瀧」。神輿の上にある「深瀧」の文字がしっかり正面に見える場所を考え、撮影。

地元の祭りを写す 魅力と楽しさ

佐藤倫子 II 写真・解説

第一章

地元の祭りを撮る

独特な情緒や伝統、その華やかな雰囲気、写真からも感じ取ることができる日本の祭り。多くの人が祭り写真に興味を持ち、被写体やテーマにするのも納得します。ニッコールクラブのフォトコンテストに限らず、全国の写真コンテストの応募作品に多いジャンルのひとつです。

審査で多くの祭り写真を見てきた私ですが、今までに祭りを被写体として撮ることはありませんでした。そんな私が、キッカケがなんであれ祭りを撮ることに夢中になり、必死になったのは意外でありました。

今回、コロナ禍から地元の祭りを撮影することになった私が、祭り写真の魅力、被写体のとらえ方についてお伝えしていきたいと思います。

祭りを撮ることを決めたのと同じ頃に、コロナ禍で祭りの開催の自粛

があり、私の祭りが撮れない残念な気持ちと、祭り関係者の祭りが開催できない歯がゆい想い、言葉にはできない「もどかしさ」みたいなものを共有した数年がありました。

そんな時を経て、昨年あたりからあちらこちらで祭りが再開。撮る側、見る側、見せる側の気持ちは今まで以上に一体感が強くなったのではないのでしょうか。

情報の事前リサーチが大事

祭りの写真を撮るときに、何よりも大事なのは「どこで撮るか」だと思います。皆、目的は同じで、祭りがよく見える位置を求めてきます。どんな祭りで、どんな流れなのか、何がメインなのか、そのためにはどこが最適な場所なのかを事前にリサーチして祭りに行くことはとても大切だと思います。

行き当たりばったりでは、よほど



これから最後の大一番というシーン。永代橋から富岡八幡宮までの一直線を担ぐ、その直前から雨が降ってきた。永代橋を渡るところ、消防署の放水車から放水されているのか？と思っていたら大雨だった。



「神酒所準備中、札板の一番上「深瀆」札板を若睦代表が取り付けます。札板が取り付けられると、さあ！祭りが始まる！そんな気持ちになります。」



本番前に富岡八幡宮に神輿を入れてお祓いをします。とても熱い日でした。

良い場所でないとも、思い通りの写真
を撮るのは難しいと思います。
今はSNSなどで色々な情報を
得ることが出来ますし、実際にその
祭りを撮ったことがある経験者に話



6月末から祭りが終わる8月末まで毎年神酒所では、会員さんが準備に忙しくしております。全てを会員さんたちだけで準備するので大変ですが、皆さん楽しそうです。



祭りの日は青空だったり、曇りだったり、土砂降りだったり
と天気の変化が激しい1日でした。ある意味、
色々な空が撮れた日でした。

を聞いたり、どんな場所なのか、初
めて行く地域であっても当日でも下
見をしましょう。
祭りをイメージして、自分ならど
んなシーンを、どのような構図で撮



深濱の皆さんの半被姿は粋でカッコいい。鉢巻や帽子がまた似合います。屋外での準備中はこの大型扇風機2台のみ。結構な暑さです。



神酒所で祭りの準備中の一コマ。基本、私は撮るばかりであり会話していませんが、そんな中でもこの写真は珍しい1枚。いつも笑わせてもらってました。



例大祭が始まってすぐ。初めての私は揉みくちやにされ身動きが全く取れない場所に入ってしまった。それでも意地があり、撮るだけ撮りましたが、この時の記憶は、ない。

りたいかを何度もシミュレーションすることが必要です。

いざ現場ではどうする？

混雑している中でレンズ交換は至難の業です。このシーンを撮りたい、こういう流れでここを撮りたいと決めたなら、それに合わせたレンズを着して現場にいきましょう。

できるだけ、身軽に！ごついカメラリユックは祭りのような人がいっぱいいる場所では周りの人に迷惑になる時があります。例えば、車や駅のロッカーに置いていくなど身軽になる準備も必要でしょう。

いざ祭りが始まったら、興奮しテンションも上がりますが、ここは冷静な判断を心がけてください。私もそうですが、気持ちが高揚すると判断が鈍り、思い通りの写真を撮れなくなります。高まる気持ちに負けないう、落ち着いて、俯瞰で考え、その瞬間を撮ること構図を決めることに集中することです。

自分らしい祭りの写真とは？

これだけ多くの人が祭りの写真を撮っているのに、みなさんも色々な写真を撮る目にはいるでしょう。

そんな中で、どんな写真を撮ったか、自分らしい写真になるのか考えることも大事です。

私は今回、一番自分が伝えたい「深濱」の人たちを通して祭りの写真を撮りました。

江戸三大祭りの一つ「富岡八幡宮例大祭」は3年に一度本祭が行われます。大神輿53基が勢揃いする連合渡御は「水掛け祭り」として大変賑わいます。私は、祭り写真として、いわゆる水掛けの賑やかなシーンを追うのではなく、「深濱」の会の神輿や人を主に撮りたいと、それ以外の町内会の大神輿も人々も撮っていません。その軸をブラすことなく撮影しました。

祭りの撮影中は、私の身長では身動き取れない場面がいくつもあり、また逆に中まで入ることができるという有利さもありました。そのため、今回のレンズはNIKKOR Z 14-30mm f/4 SとNIKKOR Z 24-70mm f/2.8 Sの2本で撮影しています。できるだけ近くから、臨場感のある瞬間を狙っていました。

3Dトラッキングを使って

身動き取れない苦しい中で、このような写真が撮れたのは、カメラが ∞ であったからだと思っています。このカメラでなければ、私は今回、祭りの写真にトライしようとは思わなかったでしょう。 ∞ に搭載の3Dトラッキングがどれだけ優秀

だったか、どれだけ助けられたか。たくさんの人、水掛けのものの凄い水でもみくちやになりながら被写体の動きに合わせてフォーカスし続けてくれたので、「この一瞬を！」という瞬間を逃さず、しっかり写真にできました。カメラやレンズの進歩と撮影の技術力は常に比例しているように思います。

地元の祭りなら、 信頼感作りから

私が今回これだけ近い場面で撮影できたのは、自分が地元で、会の一員で、会員の方々との信頼感を作ることができたからでしょう。撮るまでの準備をしっかりと組んだことで、

よりこの祭りの作品を深く撮ることができました。

みなさんが祭りをどういう状況で撮るかで、その写真はそれぞれ違う見え方になると思います。

私には、よく見る、よく見てきた祭り写真は撮りたくない、とい自分自身の「信念」みたいなものがありました。

した。意地とかではなく、意外とそういう思いは写真に表れます。だから写真は面白い。

1年に1度、数年に1度しか開催しない祭り。本番の1日の貴重な瞬間を一時も逃さず必ず撮る！という想いや気合も必要だと思います。

「深瀆」を撮ると決まった最初の時から、黒布バック、屋外、大型ストロボ1灯で、正装の法被姿を一人ずつ撮らせてもらおうと考えていました。本祭りでは皆、忙しくピリピリとしていますので、前年に催された神輿お披露目というおめでたい日に、正装して集まった保存会の会員を撮影させてもらいました。今回の写真展案内ハガキのビジュアルはこの時の写真です。総代9名をレイアウトしたハガキにしました。



THE GALLERY 企画展

佐藤倫子「深瀆」

ニコンプラザ東京 THE GALLERY

2024年6月11日(火)～6月24日(月)

ニコンプラザ大阪 THE GALLERY

2024年7月4日(木)～7月17日(水)

【トークイベント】 ※予約不要・参加無料

東京会場：6月22日(土) 14:00～15:00

(新宿エルタワー30階サンスカイルーム)

大阪会場：7月6日(土) 14:00～15:00

(ニコンプラザ大阪)

「過去を撮りたい」という思い

日本には本当に多くの祭りが存在します。コロナ禍以前に私は継続的に撮影してきました。そもそもは、自分自身が生まれ育った長野県諏訪地域に1200年以上前から7年ごとに行われている「御柱祭」を撮影したのがきっかけでした。

幼い頃から節目ごとに接してきたその祭りを写真に撮ることによって、より深く理解、そして客観視することができるようになりました。さらに、その後、諏訪地域だけではなく日本全国の祭りを訪ねるようになりました。

私が写真を撮る上で強く意識していることがあります。広い意味での「過去を撮りたい」という思いです。写真とは「いま、ここ」しか撮れないという大原則があります。それにあらがいたい気持ちがあるのです。さらに過去に生きた人の息づかい、動き、歌声といったものを、単純に感じたい、見たいという欲望があります。やはり、きっかけは御柱祭でした。1998年に真つ赤なバック紙をセットして、その前に祭りの装束を身につけた地元の人たちに立ってもらい撮影をしました。父親、親戚のおじさんたち、近所の人たち、同級生、そして知らない方々にも協力してもらいました。撮影のさなか、ふ

古層の祭りを撮る

小林紀晴 写真・解説



長野県・七久里神社：裸祭り〈2024年度 9月28日（土）開催予定〉

向かう姿勢、いつてみれば「コンセプト」なのです。

古層の「気配」を撮りたい

単純に目の前の被写体に眼を向けるだけではなく、過去に思いをはせると、まるで違った側面が見えてくることに気がつきました。もっと抽象的な表現をつかえば古層の「気配」を撮りたいということになります。だからアイコン的な鳥居や神社の建物といったものはほとんど撮影していません。

冒頭でも触れましたが、祭りを撮ることは、自然とそれぞれの地域、その文化といったものをより理解することになります。ある程度、調べないと撮れないからです。だから、みなさんにはまずは地元の祭りを撮影することをおすすめします。有名な祭りである必要はないし、規模が大きくなくてもいい。そのほうが撮りやすいということもあります。古い祭りだけでなくかまわない。できるだけ丁寧な背景や成り立ちを考えながら撮影してください。最近「スナップ冬の時代」といわれることも多いですが、祭りは街角などでのスナップに比べて制約が少ないと側面もあります。だから自由度が高く、スナップの新たな可能性が秘められているといえるでしょう。

と不思議な気持ちに囚われたのです。八ヶ岳の奥深くから古層の人々が突如、目の前に現れたという感覚を憶えました。違う言い方をすれば過去から来訪した人の姿に感じられたのです。1200年前と現代の祭りのかたち、装束が同じとはさすがに考えないが、少なくとも50年前、あるいは100年前とその姿は大きく変わらないのではないかと。同



(上) 熊本県・国造神社：御田植祭〈2024年度 7月26日(金)開催予定〉

(下) 埼玉県鶴ヶ島・白鬚神社：脚折雨乞 4年に一度開催されている。〈2024年度 8月4日(日)開催予定〉





祭りを撮る技術

祭りを撮る上で、もっとも大切なのは主催者(祭に参加する人、関係者含め)の邪魔となる行為は一切慎むこと。あくまで撮らせてもらう立場だと肝に銘じています。

プロは特別な場所から撮っているのではないと言われることがありますが、私の場合はほぼゼロです。撮影の許可が必要な場合を除いて、一般の方たちと同じところから毎回撮っています。

地元の方に話を聞く

祭りの撮影に大事なことはいくつもありますが、まずは事前の情報収集。公式Webサイトがあれば当然それを確認。さらにネット上で過去にその祭を撮影した書き込みがあれば目を通しています。日記形式のものよりはより臨場感があつたりします。そして、かならず事前に主催者や観光協会などに電話で日時を確認しています。時々、公式Webサイトでも単純な間違いや、前年のものが載っていたりするので注意が必要です。

もっとも貴重な情報源は現地にいてから地元の方に話を聞くことです。だから少し早めに着くようにしています。地方の小さな祭りで手持ち無沙汰にしていると「どこから来た？」

と地元の写真愛好家に聞かれることが多く、「東京からです」と答えると、「わざわざ、こんな祭りを撮りきたの？ あんたも物好きだね」と驚かれます。そうならしたためたもの。多くの方は本当に親切に教えてくれます。大事なことは全体の祭りの流れを把握することです。いつ、どこから、どんな人が踊りながらでてくるとか、詳しく聞きながらイメージをかためていきます。

撮影の準備は？

私は基本的には三脚は持っていないません。三脚を立てるとその場に縛られてしまうので、基本はすべて手持ち。祭は繰り返しが多いので、ある程度撮れたと思ったら、さっと移動します。似た絵柄よりバリエーションを増やすことを私は優先させています。あつて便利なのは量販店などで売っているペンションになるプラスチックの踏み台。カメラのストラップを通して肩にかけて持ち歩き、必要ときだけ広げます。頭一つ分稼げるので、場所取りしている人の後ろに置いて撮っています。ただ、ずっと乗っていると背後の方の邪魔になるので短い時間だけ撮って、さっと引き上げるのがコツ。



① 深川熊野神社の鬼追い

場所：鹿児島県曽於市末吉町 日時：毎年正月7日の夜

これまで撮影してきたなかでもかなり迫力があった祭り。祭という言葉ではおさまりきらない「野性」のようなものを感じました。頭に巨大な御幣をつけた鬼と、目元だけをだし手に「鬼の手」と呼ばれる藁で編んだ硬い棒を持つツケ（鬼使い）と呼ばれる男たち。つめかけた地元の人は鬼の頭の御幣を必死に取ろうとします。それを持ち帰ると一年間、無病で過ごせるといわれているから。ツケが「鬼の手」を振りかざし、容赦なくそれを阻止。身体を張った真剣で「マジ」な祭に久しぶりに出会いました。



② 式年造営御柱大祭「御柱祭り」 場所：長野県諏訪大社 7年に一度、寅と申年の年に執り行われる神事

私の地元の長野県諏訪の御柱祭。上社山出し、木落の場面。毎回撮影していますが撮影したこの年は、雨が多く、祭の参加者はもちろん、撮影にも苦労しました。この日は雪まで降り出し途中で退散することにしました。電車の窓からタイミングがよければ、いい写真が撮れる可能性があることを知っていたので、ダメ元で狙ってみたら意外と面白写真に。新鮮でまるで違う祭のようにも感じられました。リスクは高いが時には思い切ってこんな撮り方に挑戦してみるのもいいでしょう。



岩手県金ケ崎町：金ケ崎夏祭り

宮 城県を中心に、東北六県の祭りを撮っています。

情報はインターネットで収集、小さい祭りは情報が少ないため、写真仲間に聞いて集めています。祭りの歴史なども調べて現地入り。祭り当日は、早めに行き、地元の方に祭りの内容などを聞いています。

出番前、休憩時間、終わった後など、本番以外の祭りの撮影もしています。広角レンズや望遠レンズを準備して使い分けています。縦・横構図だけでなく思い切って斜めの構図などでも撮っています。

祭りを撮る時に、絶対立ち入り禁止区域からは撮らない、そして人を押し退けて、撮るなどもしない様にしています。自分が撮ったら、次の人に場所を譲るなど、皆で楽しく撮影することを心がけています。

近年、地域で古くから根付く祭りは、少子高齢化で存続が危ぶまれています。そんな状況なので、記録として、また伝承のため、撮影を継続して作品発表をしていきたいと思っています。

藤島純七さん（宮城/仙台支部）



会員さんにインタビュー
私、祭り撮ってます!!

例 大祭や伝承行事など地元の祭りを撮っています。

祭りの情報は、撮影経験の多い先輩写真家やカメラ仲間から聞いています。祭りは、メインの祭りだけを狙うのではなく、舞台裏や準備中なども、ドラマを感じるシーンに出会うことがあるので積極的に撮影しています。

祭りの雰囲気や賑わい、関係者の表情など瞬時にとらえられるよう、カメラ2台、広角と標準のズームをつけ状況により使い分けています。

祭事に敬意を払い「撮らせてもらう」という気持ちを忘れないようにしながら主催者からの注意事項を守り、撮影に夢中になり周りに迷惑をかけないように心がけています。まずは自分自身が祭りを楽しむこと。そして被写体として写真を撮らせていただいた方には写真をプリントしてお届けしています。

大変喜ばれますし、コミュニケーションを築くことで地域や祭り関係者との距離も縮まり、また来年も写真撮りに来てねと言ってもらえたり、今後の撮影にもプラスになったりします。

皆川春奈さん（愛媛/南予支部）



香川県さぬき市・塚原稲荷神社：あばれ神輿

祭りの写真をニッコールクラブ会報フォトコンテストに数多く応募していただいているニッコールクラブ会員の藤島純七さん、皆川春奈さん、土岐令子さん、青木竹二郎さんにインタビュー。
実際どのように、祭り写真を撮っていますか？ 楽しんでいますか？



福岡県久留米市・大善寺
玉垂宮：鬼夜祭

厳 寒の中での神事、火祭り、神輿を担いで町中を練り歩く活気に満ちた祭、古式に則った装束で行列する雅な祭など、日本全国の祭りをジャンルを問わず撮っています。

祭りの情報は、写真撮影専門のツアーの案内などで情報収集しています。祭りによっては、毎年開催日や天候によって変わることがあるため、開催の有無などは直前にしっかり知らべておく必要が

ります。

祭りは、広角を使って狙うことが多いです。全体の雰囲気、色味が美しいときを撮っています。被写体の近くに寄って、動きを見ながら撮ることもあります。

人物を撮る前には、必ず許可を撮っています。難色を示されたときには無理に撮らないように、相手が写真を欲しがってくれたときは応じて、自分の名刺を手渡しています。

日本の伝統文化を意識して、地域色の豊かな祭りを撮っています。奇祭と呼ばれる祭りにも興味があり、人間の祈りや願いを考えて興味は尽きません。地方に訪れた時、そこで出会った人たちとの一会を楽しむことが喜びです。

土岐令子さん
(大阪/阪神支部)

フォトジェニックな写真ならではの表現を目指しているので、華やかでアクティブな動きのある祭りが好きです。祭り周辺のスナップに重点をおいて撮影しています。

情報は、インターネットで検索して得ていますが、写友からとっておきの情報をもらったりもします。日帰りで行ける祭りを撮っていますが、撮りたい祭りを見つけたら、遠方の祭りでも車で撮りに行っていますよ。

「凄っ！」と感じた祭りは、その心象を増幅、強調するような作画を目指しています。仕上げのレタッチも妥協せず、納得がいくまでこだわっています。祭りに撮らされた紹介写真にならないよう、周辺にも視線を向けてスナップするように心がけています。

スナップ写真は、肖像権への配慮が過敏になっていると感じます。祭りは人々もテンションが高く撮影しやすいですが、相手の心象を害する行為は決してしないように心がけています。



愛知県豊田市：拳母祭り

祭りは歴史的な伝承が背景にあり、継承されている地域の方々に敬意を感じますが、紹介的な写真は撮らないようにしていますが、祭事やその周辺の情景からフォトジェニックな場面を抽出できればと

願っています。

青木竹二郎さん
(奈良/奈良秋篠支部)

三好和義 × NIKKOR Z 20mm f/1.8 S



Z 8・NIKKOR Z 20mm f/1.8 S・f/1.8・8秒・ISO3200

夏の清涼感を求めて。
福島・たかつえの蕎麦畑に行った。

半月の夜、星空。

夜の景色でも一瞬で

ピントがあってくれたのは、

「スターライトビュー」の

凄技。

明るい月の光の輝きの中で、

目には見えない、

天の川も写っていた。

ゴーストが出ない

NIKKOR Z 20mm f/1.8 Sの

魔法。